



1. BA 運営委員会の開催

第9回 BA 運営委員会が10月25日にスイスのローザンヌ（ローザンヌ工科大学）で開催された。今回は3つの事業の2012年作業計画が承認されたほか、IFMIF/EVEDA の新しい事業チーム体制、IFERC 事業の貢献分担表や事業計画の軽微な変更が承認された（図1参照）。IFERC 事業では、高性能計算機の据付が計画通りに進み、2012年初頭から運用が開始される。

IFMIF/EVEDA 事業では、2011年5月に原型加速器の入射器による初めて陽子ビーム生成に成功し、2012年11月までに入射器が六ヶ所に移送される予定。また、2011年2月にリチウム試験ループの建設と初期運転が成功裏に完了したが、震災のために一部が損傷したため、修復を考慮した事業計画の改訂が検討されることとなった。

サテライト・トカマク計画事業に関しては、日本担当の真空容器の最初のパーツが製作され那珂市に搬入されたほか、欧州分担のトロイダル磁場コイルの調達契約が締結された。初プラズマの時期を含む事業計画の改訂案が今回の

運営委員会に提出される予定。

今回の運営委員会は、2012年4月24日に、茨城県那珂市（日本）で開催される。

2. 高性能計算機の試運転

計算機・遠隔実験棟に欧州が調達する高性能計算機については、引き続き Bull 社による据付調整が進められており、11月29日に最後の計算機ラックの輸送を終え、試運転が開始されている。11月に公表された、Top 500 Supercomputer Sites (<http://www.top500.org/list/2011/11/100>) では、全数の約3分の1の数の既に稼働しているCPUラックを用いたLIMPACコードによる試験において、計算速度がピークで約442.4 テラフロップス（1秒間に約440兆回の計算速度）という性能が出て、世界のランキングの28位（日本では3位）に入っている（図2参照）。

また10月から同高性能計算機の課題公募が開始されており、国内ではプラズマ・核融合学、核融合エネルギーフォーラム等をとおして周知された（公募期間は10月1日～12月1日）。

3. IFMIF/EVEDA 開発試験棟の付帯設備の工事開始

IFMIF/EVEDA 開発試験棟で実証試験を行う加速器のため日本側が調達する電源設備および二次冷却設備等の製作、据付、工事等が本格的に進められている。10月には欧州側が調達する冷凍機設備および高周波電源等の冷却を行うための一次／二次冷却設備の熱交換器、ポンプ等を収納する冷凍機建家が完成、現在屋外基礎にその二次冷却設備の冷却塔が据え付けられた（図3参照）。

4. 日韓トリチウム・ブランケットワークショップの開催

11月9、10日に日韓のワークショップとしては初めて国際核融合エネルギー研究センターで開催された。本ワーク



図1 第9回 BA 運営委員会
(10月25日にスイスローザンヌ工科大学にて)



図2 高性能計算機据付・調整の現状（左：初雪の中での搬入（11/25）、右：計算機室Iに全データえ付けられたラック）



図3 IFMIF/EVEDA 開発試験棟の付帯設備の工事
(左から屋外基礎上のクーリングタワー、(奥) 冷凍機建屋、電源設備の工事)

ショップはBA活動の枠組みの中のものではないが、ITERのテストブランケット、また、将来の原型炉の開発に必須なトリチウムの取扱技術、ブランケット工学技術に関して日本と韓国の間で2003年以降情報交換の場として開催されているものである。今回は韓国から13人の研究者が来訪



図4 日韓トリチウム・ブランケットワークショップ
(11月9日、国際核融合エネルギー研究センター管理研究棟にて)

し、熱心な議論が持たれた。また、各研究施設の見学も行われ、ブランケットの先進材料、トリチウム取扱技術が総合的に研究、試験できる原型炉 R&D 棟の研究施設には韓国研究者の興味が集まっていた(図4参照)。

(日本原子力研究開発機構核融合研究開発部門)